

AWC 日本連の 2024 年度の活動日誌（全国取り組み・国際取り組みを中心に）

2024 年

3 月 30 日 AWC 日本連 第 29 回総会

3 月 31 日 美浜現地大集会＋デモ（AWC 福岡からも参加）

4 月 9 日 ★米日比三国首脳会談に反対する日比共同声明

4 月 11 日 フィリピンのジプニー労働者の闘争への連帯の認証ショット送り（4/25 まで）

4 月 17 日 ZOOM はんかく井戸端会議でパク・ヘリョンさん「ヨンドク原発住民投票の報告」

5 月 1 日 ★AWC 韓国委員会からメーデーへの連帯メッセージ

5 月 3 日 韓国総選挙結果をめぐるオンライン学習会（講師：ホ・ヨングさん）

5 月 15 日 ★AWC 日本連通信 23 号 発行

5 月 16 日～19 日 AWC 沖縄派遣団（首都圏 1、関西 2、九州 2）県民大会、辺野古、南部

6 月 1 日 大西豊さん偲ぶ会（名古屋）に参加 ※年末に同人誌「叛」追悼号が発刊された。

6 月 9 日 反原発大阪大集会（AWC 福岡などからも参加）

6 月 21 日 韓国オプティカル労働者の日東電工株主総会抗議行動（大阪）

6 月 24～26 日 ILPS 総会（マレーシア）への派遣

6 月 28 日～7 月 8 日 6 月アジア共同行動でパク・ヘリョンさん来日

6/29 京都集会（集会後にデモ、その後交流会）

6/30 首都圏集会（渋谷勤労福祉会館での集会のあと、交流会）

7/3 ユース交流（京都市役所前座り込みの後、市民運動拠点「わたつね」で夕食交流会）

7/5 福山集会（市民参画センターで集会のあと、交流会）

7/6 北九州集会（生涯学習総合センターで集会、記念写真）

その他、6/28 東電前、7/1 浪江フィールドワーク、郡山交流会、7/2 長岡交流会、7/4 若狭フィールドワーク、7/7-8 女川集会とフィールドワーク

6 月 30 日 志賀原発は次の大地震に耐えられない全国集会 in 金沢

7 月 1 日 ★日米韓共同軍事演習に対する日本連抗議声明と防衛省前行動（東京）

7 月 8 日 ★日比円滑化協定の調印に関する声明（日比 AWC）

7 月 8 日 日比円滑化協定の調印に関するマニラ日本大使館前抗議行動

7 月 9 日 日比円滑化協定の調印に関する防衛省抗議行動（東京）

7 月 12 日 岩国スタート集会（大阪）岩国・労働者反戦交流集会の主催で

7 月 13 日 関生反弾圧シンポジウム（大阪）

7 月 21 日 AWC 日本連全国会議（京都） ※同日に岩国で日米共同訓練反対市民集会

7 月 24～26 日 植民地支配の歴史を知る—AWC 台湾訪問団（5 名参加）

8 月 6 日 広島青空式典

8 月 24～25 日 AWC 反戦夏季合宿（京都）

24 日 台湾報告、ILPS 報告、岩国チラシ検討、

25 日 祝園ミニ学習会、AWC 各地とともに祝園弾薬庫問題ミニフィールドワーク、「夏の大学学習会」とデモ参加

9 月 6 日 AWC ユース台湾報告会（青年層中心に 15 名の参加）

9 月 3 日～7 日 韓国 907 気候正義行進への福島市民招請に AWC として協力

- うち 6 日 AWC 韓国委他 10 団体で汚染水問題での街頭記者会見（ソウル光化門広場）
- 6 日 AWC 韓国委の呼びかけで福島市民講演会（民主労総本部 12 階会議室）
 - ※期間中に岸田が訪韓した際に韓国での在日青年の不当連行（根拠なし）
- 9 月 11 日 茨城育樹祭ビラ弾圧（9 月 27 日拘留事由開示裁判）支援、処分保留
- 9 月 12 日 関生京都三事件 最終弁論
- 9 月 23 日 高浜での反原発全国集会とデモ
- 10 月 10 日 ★AWC 日本連通信 24 号発行
- 10 月 12 日 AWC 日本連全国会議
- 10 月 21 日 日本連全国事務局の岩国行動準備のための展開・愛宕山見守りの集い参加
- 10 月 24 日 キーンソード 25 日米軍事演習反対街頭行動（各地で）
- 10 月 26-27 日 マレーシアでの国際移民連盟（IMA）「戦争と移民・難民・避難民」国際会議に参加
- 11 月 1 日 ★フィリピン KMU 弾圧に対する抗議声明とそれへの賛同よびかけ
- 11 月 8 日～11 日 韓国労働者大会 AWC 訪韓団（4 名＋1 名）
- 11 月 16～17 日 2024 岩国行動 ※宮古（リモート）、辺野古、佐賀、韓国・滞日フィリピンを招請
- 11 月 17～18 日 オプションで上関・祝島訪問
- 11 月 30 日～12 月 1 日 大分敷戸で戦争をとめよう！沖縄-西日本全国交流会参加（九山・京都）
- 12 月 4 日～7 日 （上海）グローバルサウス学術大会 参加（日本から宮古・沖縄・AWC 計 5 名）
- 12 月 8 日 「とめよう！原発依存社会への暴走関電包囲大集会」への参加
- 12 月 12 日 福岡入管死亡事件国賠裁判判決（棄却の不当判決！）
- 12 月 20 日 ★韓国 12/3 事態への日本連声明発表と賛同募集（1/15 まで 116 団体・個人賛同）
- 12 月 22 日 米軍性暴力を許さない沖縄県民大会連帯行動（各地で）

2025 年

- 1 月 1 日 関西生コン労組弾圧反対 元旦行動（450 名）
- 1 月 19 日 AWC 日本連全国会議
- 1 月下旬 ★AWC 日本連通信 25 号 発行 ※AWC 九山の米軍性暴力反対声明収録
- 1 月 21 日～3 月 28 日 韓国オプティカル大阪遠征団（同行通訳の一部を AWC が担当）
- 2 月 3 日 大統領非常戒厳以降の韓国情勢オンライン講演会（講師：ホ・ヨングさん）計 33 名
- 2 月 22 日 戦争止めよう！沖縄・西日本ネットワーク結成集会（鹿児島）参加（関西、九州）
- 2 月 23 日 ★2.23-26 宮古島陸自 6 周年・電子戦部隊車両搬入阻止連続闘争への連帯メッセージ
- 2 月 26 日 関生弾圧京都三事件判決公判（無罪判決！）
- 2 月 28 日 ハラスメント問題の事実確認会（都内、AWC 首都圏と全国事務局の共同で）
- 3 月 11 日 東京(3.8)、京都(3.8)、大阪（3.9）、北九州(3.9)、山口(3.22)などで反原発集会参加など取り組み
- 3 月 14 日 韓国オプティカル遠征団と AWC(ユース・京都)の懇談会
- 3 月 20 日 ★「グローバルサウス学術フォーラムに参加して」上海訪問団の報告集発行
- 3 月 20 日 AWC 日本連 第 30 回総会 一部 上海フォーラム報告、二部 総会

第一議案（総会で大枠を確認しました。総会で出た意見や、その後の全国事務局でも検討した進展状況などを⇒の赤い文字で入れたので参照してください。）

（追記： 7 月 27 日AWC日本連全国会議で、より具体化された事項を青色文字で追記しています。）

① 全国的活動・国際活動を中心にした活動日誌（別紙）

各地・各団体の年間報告があれば配布。特に強調したいことあれば簡単に報告してもらう。

・ 関西生コン弾圧について（京都三事件完全無罪判決とその後）

⇒関生支部から報告をいただきました。

② 2024 年度の活動総括

AWC 日本連の独自活動として、5 月沖縄派遣、6 月 AWC 韓国委の反核活動家を招請してのアジア共同行動、8 月祝園弾薬庫問題を中心に反戦夏季合宿、11 月韓国労働者大会訪韓団、11 月 2024 岩国行動という例年の事業と合わせて、7 月植民地支配の歴史を知る台湾訪問団、12 月グローバルサウス学術フォーラム上海訪問団が取り组まれました。

その中でも AWC 勢力の最大結集となる 2024 岩国行動については、事務局の総括メモの他に、山口からの文章、労働者実からのコメントを受けておきたいと考えます。

グローバルサウス学術フォーラム参加については、2023 年度の G7 広島サミット反対闘争での出会いをきっかけに宮古島・沖縄島・AWC 日本連からの報告を行なうことができ、関心の高いグローバルサウス諸国、台湾、中国の専門家たちと討論が出来て「中国は絶対に戦争を起こさない。」というメッセージを受け取れたこと、このフォーラムで米国のアジア版ミニ NATO 作りとその戦争の急先鋒となった日本の戦争策動との闘いが AWC（全アジア規模で日米帝国主義の侵略と支配に反対する運動）の一翼として位置づけられていることを知ることができました。

また、オンライン企画として、AWC 韓国委と協力して昨 5 月と今年 2 月に激動する韓国情勢に関する講演学習会を行いました。また、韓国戒厳令事態に関して、日本の労働者民衆の課題に焦点を当てた声明と賛同・メッセージを集め（116 団体個人）届けました。

さらに、昨年一年間、与那国、石垣、宮古、沖縄島、奄美、大分敷戸、京都祝園と広がる自衛隊攻撃基地とミサイル弾薬庫の新增設に対する各地での危機感を背景にした運動の全国的ネットワークが作られており、AWC の九山や米軍 X バンドレーダー基地を抱える京都、岩国労働者実からも参加していています。

また、悪名高い日本の「食い逃げ」企業の中でも史上最悪の日東電工に解雇された韓国オプティカルハイテック支部の労働者がこの間 2 か月以上にわたって大阪遠征闘争を闘っているなど、韓国政府からの恩恵待遇と韓国労働者の労働によって肥え太ったあげく労働組合潰しの偽装廃業をする例も後を絶ちません。韓国オプティカルハイテック争議の大阪遠征団には様々な労働組合や市民団体、活動家が入れ替わり立ち替わり参加して、一定の支援組織が作られて行きつつあります。AWC もユースをはじめとして通訳や支援行動に積極的に参加しています。

また、発行物としては、年間で 3 回の AWC 日本連通信と、節々での声明の発行や賛同呼びかけ、連帯メッセージの作成、上海フォーラム報告集（500 円）の発行などを行ないました。

⇒『2024.12.5-6 in 上海グローバルサウス学術フォーラムに参加して』（頒価 500 円）の発行：

255 部作成。首都圏と九州山口 20 ずつ、宮古 30、沖縄 100 を、それぞれ原価 1 冊 160 円+送料で引き取ってもらい、販売利益は各地の活動に役立ててもらうこととしました。さらに長年日本連財政を支えていただいた感謝を込めて関西生コン支部に 30 部贈呈。残りの 55 部を主に関西で販売中。現在、残部が約 15 部です。関西での販売利益は、日本連会計へ。

（追記： ほぼ完売し、売上から印刷費用・郵送料を清算して、日本連会計に10,000円程度の黒字

収入となる見通しです。)

③ 上海フォーラムについては 1 部で詳細に報告されたので、そのほかの重要課題について、それぞれ関係する地方・団体からの報告（各 7 分以内）をお願いします。

(1) 2024 岩国行動振り返りと 2025 岩国行動に向けて（AWC 山口から、労働者実から）

(2) 九州・西日本ネットワーク結成集会&フィールドワーク報告（福岡から）

(3) 韓国オプティカルハイテック労組大阪遠征団支援（ユースから）

④ 2025 年の直面する情勢と今年の活動方針

国際情勢は、トランプ政権の登場でますます混沌としてきています。はっきりしていることは、ロシア・ウクライナ戦争もイスラエルのパレスチナ攻撃も、結局のところ世界規模での民衆の巨大な反戦運動なしには止められないということです。反戦の街頭行動の拡大は引き続き課題です。また、多様性が否定され、マイノリティーの存在を無視・拒絶していくことで、いっそう差別と排外主義が強まることが予測され、国内外でのこれへの反撃が重要になると思われます。

敗戦 80 年となる 2025 年は AWC 日本連運動にとっても大きな節目です。日本連創設から 30 年を迎える年ということで、少しだけ AWC 運動を振り返ってみましょう。AWC 運動の第一世代は、今は全員鬼籍に入られましたが、小城修一さんや斉藤一雄さん、白松哲夫さんのように日本帝国主義の侵略戦争を直接に経験した世代で戦後の労働運動や反安保闘争、左翼運動を闘い抜いた人々でした。この方々が台湾の白色テロルで 36 年の投獄生活を送った林書揚さんや陳映真さん、極貧階層出身で韓国の土着の共産主義者であり鉄道労働者出身の闘士だったイ・スガプさんたちと AWC 運動を通じて出会い、国は違っても全アジア規模で日米帝国主義の侵略と支配に反対する運動（AWC のこと）を建設することを引き受けて、亡くなる直前まで活動されました。各国・地域でその次の世代が AWC 運動を引き継ぎ、今はさらにユースを中心に 20 代の人々の運動も AWC の推進力となっています。そして、上海のグローバルサウス学術フォーラムが、台湾の AWC 創設者の闘いを引き継ぐことを宣言したように、「アジア全域にわたる米日帝国主義の侵略と支配に反対する運動」（中国語的表現）である AWC は、私たちの運動であるとともにアジア諸国の労働者民衆自身の運動です。

日本の敗戦 80 年は、日本帝国主義が支配した国々にとっては解放から 80 年の節目の年です。台湾労働人権協会からは今年の 10 月 25 日台湾光復節（日本帝国主義の支配から解放され中国に返った日）に、AWC 日本連に共同の取り組みをしたいという呼びかけが来ています。日本と台湾の共同取り組み、韓国やフィリピン、インドネシアなど他の AWC 加盟国・地域の共同の取り組みなど、一年をかけて取り組んでいく必要があるでしょう。

また、昨年度の 6 月アジア共同行動では AWC 韓国委所属の反核運動活動家が来日して反原発運動の交流を全国的に組織しましたが、今年は韓国からの労働運動左派活動家の派遣が予定されており、労働運動交流が多様に組織されることが必要です。どうしても労働運動での交流を意味があるように組織していこうとすると、活動家グループでの交流会などよりは準備が必要になるので 6 月アジア共同行動をそのようなものとして位置付けて、組織化を準備していきましょう。

④ また別の角度から見ると、AWC の国際連帯がより実践的で、かつ一年を貫くものになってき

たとも言えます。G7広島サミット反対現地闘争をきっかけとして始まった「台湾有事」に反対する台湾と琉球弧の連帯（台湾への宮古・沖縄の訪問、沖縄への台湾の訪問）から上海フォーラムに到る一連の取り組みの上に、その発展として台湾や中国からの宮古・沖縄への訪問と交流も追求できるでしょう。2 か月以上にわたる韓国オプティカルハイテック労組遠征団の大阪での活動と支援（まだ解決していない）は継続しますし、まだ始まってはいませんが滞日フィリピン組織との例えば滞日フィリピン人労組づくりのような共闘の提起など、日本連創設 30 年、AWC 創設 33 年にあたる 2025 年の AWC 運動は、国際・国内ともに果たすべき役割は大きくなり、より多くの人々の力を必要としています。AWC 日本連運動のすそ野拡大（労働運動との結合、青年運動との結合、、、）の好機であり、そのために各地 AWC の活性化の重要性が強調されるべきです。

⑤ 総会までには用意できませんでしたが、反戦・反基地・反原発運動、労働運動、反差別・反排外主義運動、国際連帯運動などの各領域での AWC の年間闘争スローガンを作成し、それに基づく宣伝物を作成して、AWC 運動への参加を呼び掛けていく必要があります。

合わせて 2025 年を通して追求する組織方針として、下記の諸点を提起します。

- ・ AWC 各地実行委の前進・新設・拡大
- ・ 共同代表の増員、全国幹事の拡大、事務局の増強
- ・ AWC 運動への各界からのサポーター（世話人的・顧問的な賛同者）組織化
名称として何が適切かわからないが昔風には@世話人である。
- ・ ユースの拡大（詳細省略）
- ・ ハラスメント問題についての日本連の立場表明&全国窓口の設置（責任者：**現事務局長**）
（これについては、現在進行形の問題であるので、後半のクローズド会議で扱います）

④2025 年間活動計画

- ・ 5 月沖縄派遣、適切な機会に宮古などへの派遣

⇒今年は、全国事務局を責任者に、およそ下記の日程で準備します。

5 月 16 日 辺野古、安和、塩川(平日なのでゲート前行動に参加する)

5 月 17 日 平和行進と県民大会への参加

(追記: 8 月 31 日「米海兵隊と陸上自衛隊の合同音楽祭抗議&島々ー沖縄ー県外交流の集い」の呼びかけが宮古からなされており、参加を追求する。)

- ・ 6 月アジア共同行動（韓国：左派労働者活動家組織である「労働戦線」の活動家が参加予定）

AWC 各地での取り組みの検討。(2024 年は、九山、京都、首都圏、福山、ユース)

コロナなどで中断されていたいくつかの地方での交流の追求（神戸、名古屋、、、）

⇒来日する活動家の肩書:「労働戦線」執行委員長

簡単なプロフィール

- ー 学生運動から運動に参加する。
- ー 政治組織での活動(民衆陣営単一政党推進委員会、民衆会議、青年進歩党)
- ー 「民衆行動」(大邱地域労働活動家組織)政策室長
- ー 「労働戦線」政策局長および執行委員長
- ー 社会科学雑誌「現場と広場」編集委員

⇒韓国側からの報告は、この間のユンソンニョル大統領罷免・大統領選挙(6.3 投票)後の韓国情勢と労働運動の課題を中心に。韓国オプティカルハイテックのある亀尾市とも近い大邱地域出身なので、韓国オプティカルハイテック労組の闘争も話してもらえるでしょう。

⇒来日期間:6月21日(土)から30日(月)までの10日間

およそ前半を関西西日本、後半を関東として、希望日を出していただいて調整します。

すでに希望が出されて確定している日程としては、

6月22日(日) 13:30 AWC 京都集会とデモ

(韓国ゲストの報告、ミгранテの関西メンバーの発言)

(追記: 6月アジア共同行動の記録は、AWC日本連通信 27号に掲載しています)

- ・反戦夏季合宿(宮古訪問と各地を ZOOM でつないでどうか)

⇒実際には、宮古訪問と合宿を ZOOM でつなぐのは無理がありそう。また、宮古の清水早子さんからの提案で、4月9日京都で宮古島の状況報告会が AWC 京都、X バンド関係、沖縄連帯関係など数団体の共催で開かれ、約 50 人が参加した。京都での宮古の報告は初めてだったためかなり関心が高かった。これらを勘案し、詳細は再度相談していくことになりそう。

※この時、台湾と一緒に宮古現地を訪問できればベスト。現在声かけ中。

※台湾労働人権協会からは「世界反ファシスト勝利 80 年」に際して、可能な共同行動をしたいとの呼びかけがあった。現在決定されているところでは、10月25日 台湾光復節(日本の支配から脱して中国に返った日)に台湾労働人権協会や労働党の企画があり、AWC 日本連にも共同行動を呼びかけるとのこと。

(追記: 7月27日の全国会議での決定として、今年の反戦夏季合宿は、一泊二日の形式ではむづかしいので、下記の二つの企画をAWC日本連として位置づけて、取り組むこととする。

①9月20日京丹後フィールドワーク(主催:米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会)への参加を呼びかける。バスが出るので、参加希望者は申し込んでください。(このフィールドワークでは、住民との交流も予定されている。さらに日米共同訓練の時期と重なるため、非常に重要な取り組みとなる。ぜひ参加してほしい。)

②台湾訪問団の報告会を、AWCオンライン企画として行う。(日時など詳細は追って)

- ・9月か10月にアジア訪問(南京虐殺記念館)

短期滞在の中国ビザが免除になるのは、いったん今年末までであるため年内にするのがよい。

⇒ユースから、青年の参加のためには時期をなるべく早く決めてほしいとの要望あり

参考: 関西で「アジアから問われる日本の戦争展」の取り組みで協力しているグループは、9月に南京訪問する予定あり(費用は全部込みで14万円とのこと)

(追記:10月をめどに南京訪問を検討中。台湾の労働人権協会に同行をお願いしている。)

(追記:8月26日~28日まで台湾訪問団を送り出します。昨年の訪問団が台風のため行けなかった東海岸の宜蘭(イーラン)のヒノキ伐採のために先住民族を武力でたたき出して作った製材集積所跡、神風特攻隊戦闘機格納庫跡、抗日闘争鎮圧碑などを訪ね歩く。ほかに、台湾側との交流会、台北市内に残る日帝植民地支配の遺跡をめぐる。6名が参加予定)

- ・11月韓国派遣(労働者大会と慶州 APEC 反対)

慶州 APEC については、韓国情勢が極めて流動的であるため、具体的な動きはまだ出ていない。

・ 12 月 13－14 日 2025 岩国行動

⇒岩国労働者実が、8 月 1 日 18:30～ エルおおさかにて「岩国スタート集会」開催を決定。

⇒日本連でも 7 月全国会議、8 月夏季合宿を通して、全国チラシの作成へ。

(追記: 海外ゲストの招請を予定。宮古島からの招請も行います。)

(追記: 2025 岩国行動の仮チラシを作成しました。カラーチラシは、9 月中旬発行予定です。
例年の参加者にチラシを送り、呼びかけを。)

・ 1 月～2 月ごろ(追記:もう少し遅れる見通し) イ・スガブ評伝の発行に関する記念行事を含めて
オンライン企画

うまくいけば「ホ・ヨングの韓国労働運動史」の発行ともタイミングを合わせられるかも。

※2025 グローバルサウス学術フォーラムもある予定。

※これらの他に、まだ時期は明確になっていないが、トランプ米大統領の来日、天皇の戦後 80 年
沖縄・広島・長崎訪問がある。広範な反撃が必要だろう。

⇒5 月初めを目途にニュースレター「AWC 日本連通信 第 26 号」を発行する予定。

この間の活動報告、5 月沖縄派遣、6 月アジア共同行動のお知らせなどを中心に。ほかにもあ
れば原稿を寄せてくださるようお願いします。

(追記: 5 月 18 日付で 26 号、7 月 21 日付で第 27 号を発行済み。次号は 11 月発行予定。)